

道北地域の景気の基調判断を据え置きました（5月）

皆さん、いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、5月13日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を「低迷しているものの、持ち直しの動きが広がっている」として、前月までの表現を据え置きました。昨年12月からこの表現をしておりますので、6カ月連続です。前月同様、持ち直しの動きが広がりをもって展開しています。

特徴点は前月とほぼ同様ですが、改めて申し上げます。

1. 政策効果に支えられて、自動車販売の好調が続いています。このほか、家電販売も薄型テレビを中心に好調が続いています。さらに、貨物輸送量、電力消費量などの消費関連指標がポジティブな動きをしています。個人消費の裾野が広がってきているとみています。
2. 短観3月調査結果から窺われる設備投資は、21年度下期実績見込みで前年同期比3.8%増、22年度上期計画が同じく10.5%増と、足もと持ち直しの傾向がみられます。相当落ちた後での増加ですのでレベルはまだ低いのですが、心強いサインと受け止めています。
3. 製材、紙パ、電子部品関連など製造業の生産・出荷が、前月に引き続き好調です。製材は主として道外向けの建材用として使われるものです。
4. 雇用環境はなお厳しい状況が続いていますが、新規求人数、有効求人倍率などをみる限り、改善の兆しがみられます。
5. 住宅投資はそろそろ底を模索し始めている段階と思いますが、まだ力強さに欠けます。
6. 新年度入り後、公共投資の減少が見込まれますので、この影響については慎重に見守っていきたいと思います。

先日、富良野を訪問する機会がありました。富良野市中心市街地活性化の原動力としてスタートした「フラノ・マルシェ」（トップページに[写真](#)を掲載しています）を見学させていただきました。4月22日のグランド・オープン以来好評で、特にこの連休中は大変な盛況だったようです。地元の食材や物産を地域住民と観光客双方に提供し、地元の食文化を発信することを通じて「まちのにぎわい」を取り戻そうというものです。地域住民の熱意が一つになって実現しました。「マルシェ」とはフランス語で市場という意味ですが、そこに入っているお店の名前が傑作です。それぞれの名前に、どんな意味が込められているのか、調べてみるのも興味深いものです。

平成22年5月13日

尾家 啓之